

電通ダイバーシティ・ラボ

佐多直厚

2014/03/06

CC字幕付TVCM トライアル制作レポート

オンエア状況報告

花王

毎金曜日 23:00～23:30

TBS 「A-Studio」

毎土曜日 21:54～22:00

テレビ東京 「ぴかぴかマンボ」

毎日曜日 21:00～21:54

フジテレビ 「全力教室」

毎木曜日 22:54～23:00

フジテレビ 「Beauty Recipe ～キレイになる賢い時間の過ごし方～」

ライオン

月～金曜 13:00～13:30

フジテレビ 「ライオンのごきげんよう」

キヤノン

毎日曜日 18:30～18:56

テレビ朝日 「奇跡の地球物語」

オンエア状況報告

パナソニック

毎土曜日7：30～8：00

MB S (TBS系列ネット) 「サワコの朝」

J R 東日本

毎火曜日21：54～22：00

フジテレビ 「タビノイロ。 ～旅美人への手紙～」

J S R

毎日曜日22：54～23：00

T B S (関東ローカル) 「未来の起源」

番組とCMのCC字幕の役割の違い

番組

放送事業として
差別のない情報発信を実施する。
聴覚障害者、高齢者への
音声情報保障
社会貢献意義が中心

局ごとのルール運用

基本は音声情報を
文字で補完すること

番組の役割に乗りながら
顧客サービスとしての情報伝達

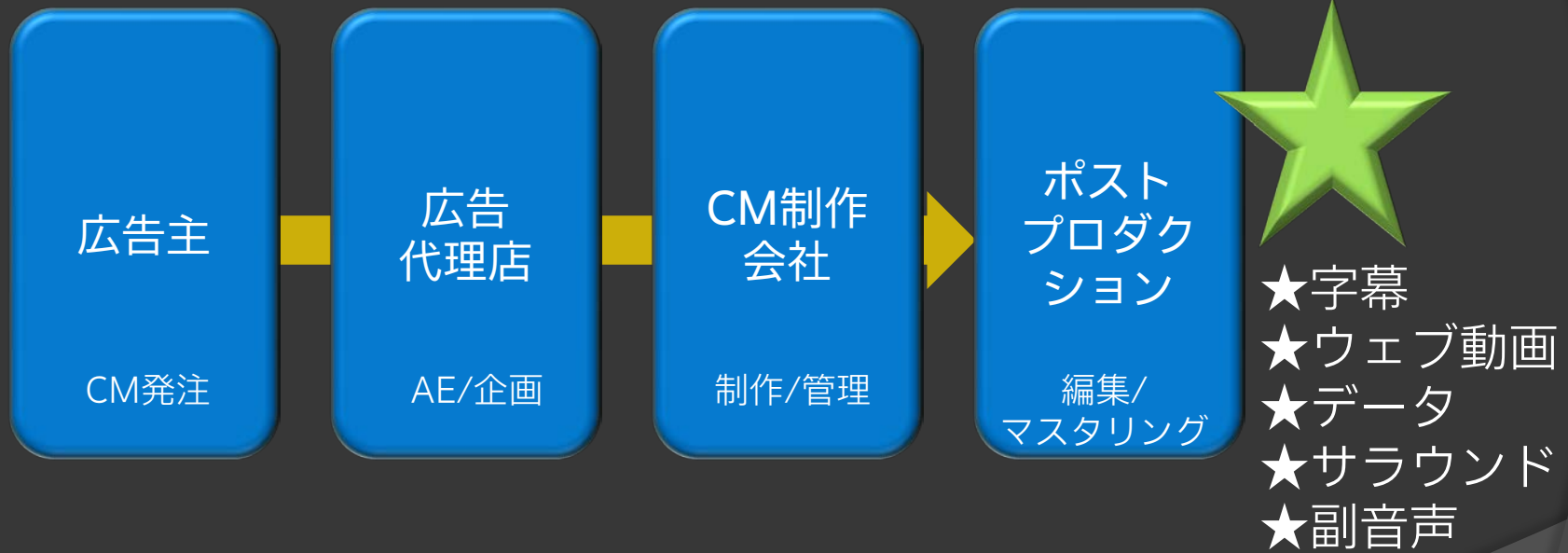
消費者と広告主
両方への情報保障の責任

TVCM

消費者へ商品情報発信を実施。
聴覚障害を持つターゲットへの
音声情報の補完による
購買・ブランド認識喚起

局横断オンエア対応など緻密な対応
と柔軟なルールで進行中

TVCM制作の一環としての 字幕付与



字幕CMの基本推奨ルール

1. 句読点は省く。
2. 話し言葉にカッコは付けず、最初の言葉に話者の名前を入れる。
(鈴木)こんにちは
3. ナレーションは<>で括る。
*パナソニックではヒアリングから、
(ナレーター)と話者表示。
4. 色使いの基本は白。主たるセリフは黄色、次は白、以下、緑、青、ピンクの順。映像に合わせて色を使い分けることも。

*カッコの使い分け

「」 会話ではなく、強調に使用。

() 話者の名前やト書き。(鈴木) (拍手)

『 』 「」の中に入る言葉をさらに強調したい時。

《 》 モノローグの表示。

*表現を阻害しないように、省略する傾向。

*主な記号

→ 文章がまたがって続く時に使用。

♪～ 音楽使用の表示。

◀ 画面外からの音。

*その他、電話機、時計、犬など音源を表すアイコンを選択または外字作成し、使用。

★テロップと字幕の関係

同じ内容を読み上げていることが多い。

*花王、ライオンではヒアリングから読んでいる限りは同じ内容でも、字幕化するルール。

*字幕はシステム表示であるため、無機質。テロップはデザイナーが書体、色、動きにより深い共感を表現しているもの。表示できるスペース、時間も限られるため字幕を略すこともある。それに慣れていただくことも必要。

★字幕は「紙芝居」

一枚ずつ、表示。一枚あたり2秒以上。
開始・終了の処理に1秒の空きが必要。

例えば15秒CMなら…

15-2秒で13秒。字幕は6枚が限界。

NAB字幕からARIB字幕へ



実使用検証で左右18文字が最適と思われる。
放送局対応と連携して運用中。

CC(クローズド・キャプション)字幕付TVCM
トライアル放送 2013 制作・入稿作業進行要領



作例協力 AC ジャパン

一般社団法人 **日本広告業協会**

平成 25 年 4 月 1 日作成

はじめに

TVCMにおける字幕には、テロップのように常時表示されるオープンキャプション(以降 OC)と、視聴者の選択で表示されるクローズドキャプション(以降 CC)があります。OC字幕は外国人のセリフの訳や、映画風の表現手法などに良く使用されていますし、CC字幕の代用として有用ですが、映像の自由度が減るため、すべてのTVCMで実施することは難しいものです。選択表示が可能なCC字幕が聴覚障害者、高齢者への配慮として望まれています。2013年2月現在、地上波デジタル放送におけるTVCMのCC字幕導入へ向けて、トライアル放送が進行しており、2013年度におけるトライアル放送では日本民間放送連盟と日本広告業協会による進行の枠組みを作成し、運用するトライアル段階に入ります。この進行要領はCC字幕付TVCMについての基礎知識と制作・入稿作業の基本的ルールと制作、運営方法の共有事項についてまとめました。

トライアル放送の着実な成果と実績で、通常放送実施への道程をかためて行きましょう。

◎目次

P1：はじめに

第一章 基礎知識

P2：なぜ、CC字幕が必要なのか／CC字幕と広告について

P3：CC字幕付TVCM制作の体制づくり

P4：CC字幕の基本／CC字幕制作作業のポイント

P5-6：CC字幕放送制作の技術的制約条件

P7：制作フロー／作業マネジメントのポイント／制作料金の考え方／CM使用音楽の著作権料について

P8：広告ビジネス視点での捉え方

第二章 2013 トライアル放送における進行要領

P9：データ作成・重量における進行要領

P10-13：字幕制作における進行要領：N A B字幕

P13-14：参考：A R I B字幕で可能になる機能と注意点

P15：オンエア素材入稿フロー進行要領

※日本民間放送連盟ホームページに掲載されている以下の資料も、参考としてご覧ください。

・トライアルにおける字幕付きCM素材搬入ガイドライン 平成25年4月1日 日本民間放送連盟・営業委員会

第一章 基礎知識

字幕付TVCMとは

TVCMを構成する要素である音の情報が得にくい聴覚障害者、高齢者への配慮として文字、あるいは図形を使用した字幕データ表示システムによって補うものです。

音の情報とは主にセリフ、ナレーション、歓声などの音声。音楽、効果音、環境音そして静寂のような無音までを含む音響を指します。音響そのものを伝えられない場合に、音響のありようを文字化、図形化して伝えることで視聴者が受けとる音の情報を補償しようとするものです。

なぜ、CC 字幕が必要なのか

日本国内には、聴覚障害者・難聴者・加齢等難聴者数が 1,944 万人に上ります。*1 つまり日本人の 15.7%がテレビ放送について音声情報について何らかのサポートを必要としています。ここ数年、TV 番組本体には字幕がかなり普及してきました。しかしCMについてはトライアル放送を実行中です。通常放送へ向けて一歩ずつ、慎重に進めています。

*1：2008 年 12 月 6 日、社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会主催のシンポジウム「聴覚補償 リハビリテーションの研究」において日本補聴器販売店協会の石井喬志氏発表データより (1)自覚のない難聴者 7.2%907 万人(2)自覚がある難聴者 4.5%569 万人(3)ほとんど使用しない補聴器所有者 1.0%129 万人(4)常時または随時使用の補聴器所有者 2.7%339 万人 (合計) 15.7%1,944 万人

補足資料：厚生労働省社会・援護局障害保険福祉部企画課作成 平成 18 年度身体障害児・者実体調査結果では児・者合わせ 358,800 人(身体障害者手帳所持者及び手帳は未所持であるが身体障害者福祉法別表に掲げる障害を有する者)

CC 字幕と広告について

2008 年 6 月 1 日施行の改正道交法で、全く耳の聴こえない人でも運転免許を取得できるように改正されました。この時点で運転可能となる対象希望者は 8 万 6 千人。2012 年 4 月 1 日改正において、さらに免許取得範囲が拡大し、モビリティ社会およびその周辺ビジネスでのバリアフリーが進行中です。

地デジ放送の CC 字幕は同時放送の携帯受信(ワンセグ)では、聴者にもマナーモードなど消音視聴の際に字幕表示して広く利用されています。

ワンセグ対応携帯電話：2010 年 4～12 月累計出荷台数 2533 万台携帯電話の 72.7% (J E I A 公表データより)



聴覚障害者マーク 2009 年 3 月交付

CC 字幕は社会貢献の意義が高く、企業イメージアップになることが期待されており、効果も検証されています。視点を変えるなら現在、音声情報を取得できていない聴覚障害者約 2,000 万人に接触し、確実に情報を届けることが出来ます。字幕付 CM による好意度の上昇効果もすでに検証されています。*2

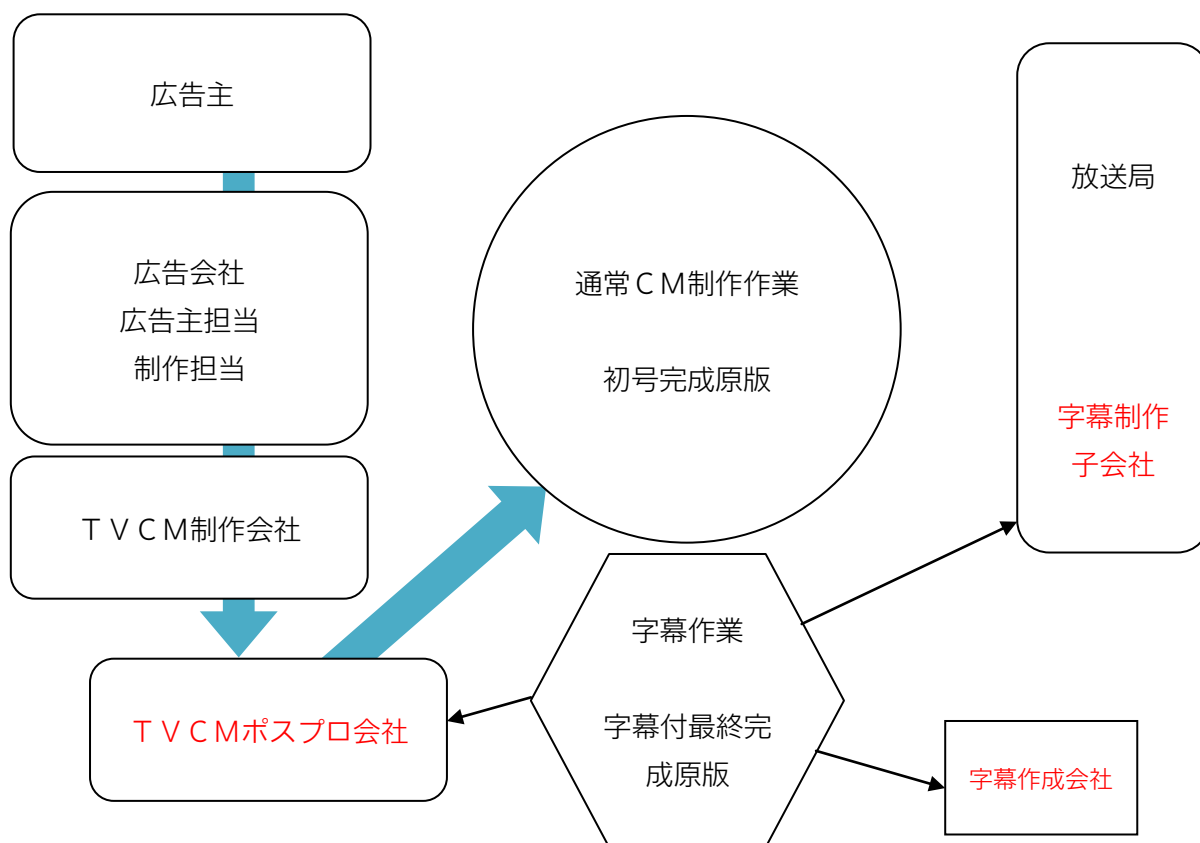
CC 字幕は配慮対象ではない、すべての人にも需要があります。子供のピアノレッスン中、家族の就寝中など消音の必要がある生活シーンで利用され、また聞き流していたメッセージを文章を読み込むことで内容理解を促進します。

*2 字幕デモ試写のアンケートでは「企業に好印象を持つ」「顧客を大切にしている 企業」という印象が聴者でも 78%。聴覚障害者の購買意欲増加は 58%。(2008 年 IAUD による調査)

CC 字幕付 TVCM 制作の体制づくり

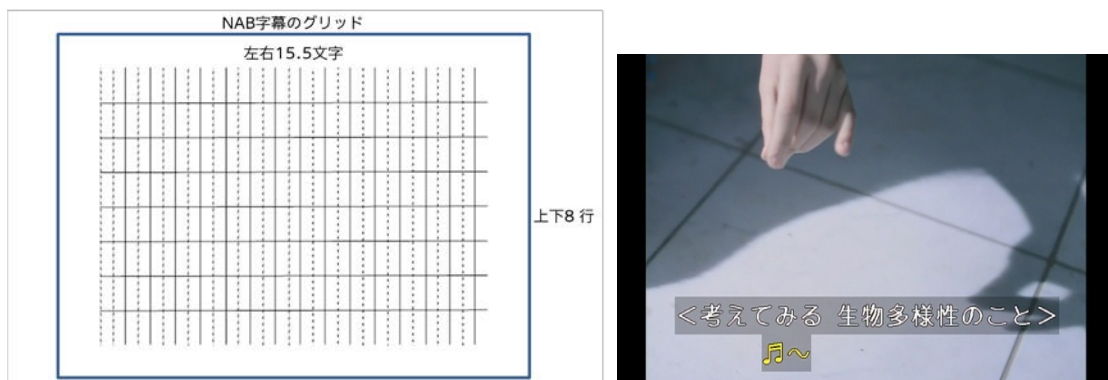
平成 24 年 11 月現在、TVCM 用 CC 字幕制作作業は、一部の映像編集会社でしか制作できません。企画との整合を図り、スケジュール・コストを管理することなどを考えるならば、最適な体制の構築をすすめる必要があります。

字幕制作・オンエア原版作成システムを編集会社(ポストプロダクション)に設置し、通常の編集作業から一貫した制作を実現することが理想的です。もちろん CC 字幕作業のみも受注する会社への二次外注も考えられます。映像ソフト制作会社にも字幕制作ノウハウがありますが、あくまでパッケージソフトとして完結した対応のため、スケジュール、コスト、オンエア素材作成について管理運営が必要です。字幕表示内容が CM としても、障害者対応としても適切であるかのチェックも重要です。放送局では字幕チェックも行われます。
*字幕制作は、通常制作作業によって完成した HD 原版素材を CC 字幕作業へ渡していただきます。字幕作成作業を行った後、HD 収録メディアへのデータ重畳した字幕データ付 HD 原版を TVCM 制作会社へお返しし、通常通りオンエアプリント作業を行います。



CC 字幕の基本

OC いわゆるテロップは画像の要素として制作されますが、CC 字幕はデジタルデータが CM 画像とは別に受信機に送りこまれ、システム表示されるものです。既定の設計により表現の自由は制限されます。特に表示書体は各受像機によって決定されます。制作側の選択できるのは、文字の色、文字バック帯の濃度(透明～黒 100%)です。文字サイズ、書体については固定です。*前記の通り、書体は受像機種に依存します。



NAB 字幕の入る位置は天地で 8 行分 左右で 15.5 行分のグリッドにレイアウトされます。

*NAB 字幕とはアナログ放送仕様の現行フォーマットです。平成 25 年 2 月現在、NAB 字幕制作ルールで字幕を制作し、ARIB (HD)データに載せる方法がとられています。有効画角も 4:3 ですので 16:9 画面の左右には使用できないスペースがあります。今後は ARIB 規格を活かしたトライアルも進めて行きます。

字幕 CM のスタートとエンドでは各 1 秒のセーフティブランクが必要です。番組送出システムと CM 送出システムの切り替え、および他社 CM との干渉を避けるためのルールで、音声画像のノンモンに相当するものです。*ノンモンは各 15 フレームです。

トライアルのひとつとして CM 字幕のスタートにおいては CC 字幕オフ時にお知らせする OC の「字幕 CM」またはマークを表示する試行を行っています。ルール化や表示のアイコン化については検討中です。

CC 字幕制作作業のポイント

サポートすべき要素は●セリフ、ナレーション●サウンドロゴ ●BGM、効果音など

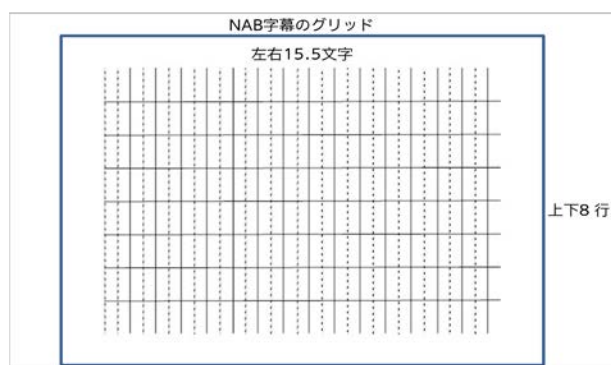
作業の 3 大ポイント

- 推奨する一画面の表示文字数-----N A B 字幕で左右 15.5 文字で、2 行 30 文字です。慣れている視聴者はかなりの判読力がありますが、不慣れな方には 20 文字前後が適当であると思われます。画面の要素によってはさらに少ない必要があります。
- 字幕表示時間-----一枚の字幕は 2 秒以上表示します。
- 安全非表示-----冒頭とエンドは 1 秒間は非表示です。

CC 字幕放送制作の技術的制約条件

CC 字幕放送は ON/OFF の選択を地デジ受信機ではリモコン操作で、ワンセグ受信機はマナーモード他受信設定で可能にしました。これは映像・音声とは別に字幕データが送出され、受信機側で字幕データをデコードし、映像に重ねて表示するシステムだからです。

字幕が表示されるタイミングや、位置・フォントの種類など字幕の見た目については、放送局および受信機によって差異があるほか、技術上の理由で字幕の表現について様々な制約があります。



●文字数・表示位置

N A B 字幕:アナログ仕様の現行フォーマット

左右1行の字幕には全角計算で15.5文字×8行です。位置についてもアナログ放送の4:3の画面部分にしか字幕を表示することができません。表示する位置は図のグリッド位置に限定されます。

A R I B 字幕:今後切り替えが進む予定のデジタルフォーマットで、表示位置はN A B 字幕の0.5文字単位の指定と1ドット単位での詳細な位置指定が出来ます。N A B と同等表示で左右21文字×8行です。技術詳細は参考資料ページを参照ください。

★携帯字幕においては16文字×3行または12文字×4行に自動変換され、行は自動切り替え、字数オーバー分はカットされますのでご注意ください。

●文字サイズ

全角に相当する「標準」----グリッド図の実線マス一個分です。

半角に相当する「中型」----図の実線マスの縦半分の半角文字です(点線表示部分)。横半角はできません。半角英数、半角カタカナ、半角ひらがなが使用可能です。理論上は左右31文字が可能ですが、データが重くなり受信機側の処理が遅れるトラブルが懸念されます。ルビに使用する「小型」----半角のさらに半分つまり実線マスを田型に1/4にしたスペースです。カタカナ、ひらがなが可能です。

★携帯字幕では「小型」は表示できません。ルビがなくなることをご承知おきください。

●追加記号(いわゆる特殊文字)・外字

字幕放送入力ソフトで入力可能な追加記号(特殊文字)は、効果音等のアイコンに使用することがあります。人名など字幕放送入力ソフトに無い文字については、外字を作成して使用します。

注意：同一字幕において外字は最大5種類までです。

●文字の色

白、黄、シアン、グリーンなど、規格上定められた色のみ使用する事が出来ます。N A Bでは16色、A R I Bでは128色、ワンセグでは8色です。微妙な色の調整は不可能です。日本民間放送連盟ホームページの「トライアルにおける字幕付ガイドライン」をご参照ください。

●フォントの種類

受像機に搭載されたフォントで表示しますので、指定する事は出来ません。

●表示不可ルール

安全を期すために映像の冒頭と終わりのそれぞれ1秒間は字幕を入れてはいけません。映像・音声のノンモン制御にあたるものです。*音声ノンモンは各15フレームです。

●字幕を表示するタイミングの制御

携帯字幕については変換器によってタイミングがずれることもあり、意図したとおりのタイミングで表示されない場合があります。

●最低表示時間

トライアル放送での基準は1つの字幕の表示時間は2秒以上とされています。前項目同様に携帯字幕においては前後のカットに字幕がかかることがあります。

●字幕の表示間隔

字幕の入るタイミング I N点と消えるタイミング O U T点。CM内の各字幕で連続する I N点間隔が2秒以上と規定されています。

制作上の基本注意事項

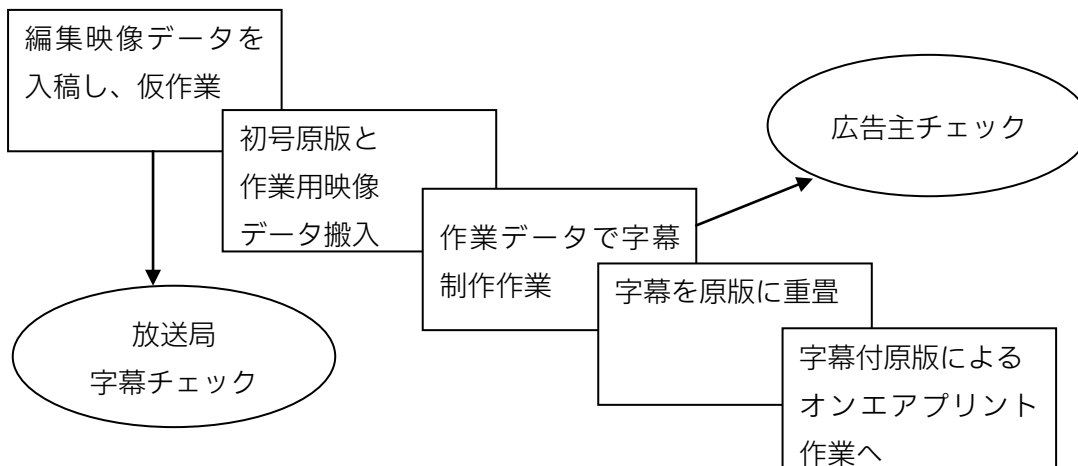
あくまでも聴覚障害者、難聴者の人々に文字で情報を伝えるという目的です。どうしても映像の一部が文字で隠れてしまう場合、できるだけ映像と文字の配置、視線移動を配慮して制作すべきです。

各放送局での字幕が適正であるか確認する字幕チェックも行われます。

その中で、①映像に焼き込まれているテロップとの関係②映像の中での優先部分配慮③音声情報補償の達成 これら三点を注意してCC字幕をレイアウトすることをおすすめします。いわずもがなですが、広告の場合は特に商品ディスプレイカット、ロゴタイプなどは最優先です。

制作フロー

通常の完成原版を持ち込んでから CC 字幕原版ができるまでの工程は以下の通りです。



作業マネジメントのポイント

これまで初号試写後プリント作業という工程に、字幕制作を組み込まなければなりません。スケジュールリングが重要です。通常では、字幕制作に一日、チェックの後、重畳作業して2～3日を要します。素材搬入前にTV局の字幕チェックが入ります。字幕・音声の構成を確認できる書面と動画データ(絵コンテでも可)を放送局に提出します。要する日数は各放送局にご確認ください。

制作料金の考え方

2013年2月現在、まだCC字幕制作自体が少ないため、料金は検討段階です。各社個別対応として料金体系づくりに取り組むこととなります。将来の通常放送を見据えて検討していく必要があると思われます。そのためには字幕制作のできる編集会社、CM制作会社の知識養成が急務となります。

CM 使用音楽の著作権料について

字幕に使用されている歌詞を進行に合わせて表示することは基本的に新たな著作権使用料は発生しません。字幕付CMを自社ホームページに上げる場合は、契約時にウェブ利用も併せて契約に盛り込むことを忘れないでください。またYouTubeに広告主がアップするケースも出てきておりますが、この場合にはJASRACとYouTubeは包括契約を結んでいますので、徴収の対象となります。

●その他のウェブ活用について、詳細および問い合わせについてはJASRAC、または対応する著作権運用会社へご相談ください。

広告ビジネス視点での捉え方

CC字幕付TVCM そのものは放送法と総務省の方針により「聴覚障害者および高齢者への配慮」として取り扱いが検討されているものです。

上記の目的の外となりますが、広告発信という視点で見れば、地デジ放送におけるCC字幕は社会貢献性に終わらず、消音視聴や携帯マナーモード視聴などにおいて聴者にとっても必要な情報取得ツールです。またここで培った知見はウェブ展開、デジタルサイネージ、OOH、PR映像などにも活用できます。広告主にとってはCC字幕付TVCMを活動事例としてユニバーサルデザイン(UD)への取り組みPRや、自社内外のUD活動との連携などに活用されるでしょう。

第二章 2013 トライアル放送における進行要領

今後の運営ルール構築に向けて今期トライアルにおける字幕付TVCM制作・入稿工程における進行規範を記述するものです。

データ作成・重畳における進行要領

「トライアルにおける字幕付き CM 素材搬入ガイドライン 平成 25 年 4 月 1 日 日本民間放送連盟・営業委員会」によって示されているものを以下に記します。

1. 字幕フォーマット

オンエア放送局の指定する媒体タイプ対応するデータフォーマットを選択します。

H D T V カセットテープ⇒ARIB STD-B37 規定の字幕補助データパケット方式

ファイルベースメディア⇒ARIB TR-B31 規定の MXF A N C 字幕フォーマット準拠

2. 字幕パケット重畳は H D, S D, ワンセグの三点。

以下の領域に全て重畳します。

字幕補助データ 1 = H D 字幕

字幕補助データ 2 = S D 字幕

字幕補助データ 3 = 携帯字幕

S D は緊急対応やサブチャンネル放送などが発生する時に使用されるものです。

例：スポーツ中継延長により、延長放送を S D 画質サブチャンネルで実施する場合。

3. 字幕の開始・終了規定

C M 開始から 1 秒間と終了までの 1 秒間は字幕本文データを重畳してはいけません。

4. 字幕表示時間

トライアル放送での基準は 1 つの字幕の表示時間は 2 秒以上とされています。

5. 字幕表示間隔

字幕の入るタイミング I N 点と消えるタイミング O U T 点。C M 内の各字幕で前の字幕と次の字幕の I N 点間隔が 2 秒以上と規定されています。

★3.4.5.を 15 秒 C M を例に説明すると

開始～1 秒：字幕なし 1 秒～3 秒：1 枚目 3 秒～4 秒：字幕なし 4 秒～7 秒：
2 枚目 7 秒～9 秒：3 枚目 9 秒～11 秒：4 枚目 11 秒～12 秒：字幕なし 12
秒～14 秒：5 枚目 14 秒～終了：字幕なし

★上記例の字幕なし 4 か所のように、文字が表示されていなくても管理データなどの字幕パケットが連続して重畳されていなければいけません。データが途切れるとエラーが発生します。

6. 10 桁 C M コード作成

字幕なし素材、字幕付素材では異なる 10 桁コードを付番します。さらに字幕付素材において表現が異なる場合や書き込みデータが少しでも違う場合にも異なる 10 桁コードを付番します。

字幕制作における進行要領：N A B 字幕

N A B 字幕制作ルールに従って、以下を進行要領とします。

1. 文字サイズ：標準・中型・小型

文字に関しては基本的には全角表示(標準)にて表記しますが、カタカナや英数字は縦半角(中型)を使用することがあります。またルビに関しては、ひらがな・カタカナ共に小型(1/4文字)を使用します。

注意：携帯字幕では小型は表示されませんので、ルビなしとなります。

2. フォントサイズ

番組で使用しているサイズ 36。CM 字幕も同様です。

3. 文字数・行数

N A B 字幕：一枚の字幕において全角文字左右 15.5 文字、最大 8 行まで。下記携帯字幕対応のため 48 文字までという制約があります。

注意：携帯字幕においては 16 文字×3 行または 12 文字×4 行に自動変換され、行は自動切り替え、字数オーバー分はカットされますのでご注意ください。

★横書きのみ。縦書きは不可です。

4. 文字表示色

基本色は白色。セリフにおいては主人公：黄色、その他：グリーン、シアンを使用。キャラクター表示の必要性に応じて規定色から自由に振り分けてください。例えば女性はピンク、子供をグリーン等々。なお番組においては基本：白色、主人公：黄色、その他：グリーン、シアンを使用しています。

注意：規定色は N A B 16 色

携帯字幕 8 色⇒N A B の色はこの 8 色に自動変換されます。

5. 字幕帯表示色

基本色はグレー・半透明をつけます。字幕が読みにくくなってしまう場合には、帯を黒色にする場合もあり、帯ナシに見える透明も可能です。色帯は使用不可です。番組では原則としてグレー・半透明(50%)を使用しています。

注意：携帯字幕では帯表示はできません。

6. 追加記号(いわゆる特殊文字)・外字

字幕放送入力ソフトで入力可能な追加記号(特殊文字)は、効果音等のアイコンに使用することがあります。人名など字幕放送入力ソフトに無い文字については、外字を作成して使用します。

注意：同一字幕において外字は最大 5 種類までです。

7. 読点、句点の使用

C C 字幕では基本的には読点(、)と句点(。)を使用しません。字幕をシンプルにし、

読みやすさを優先するためですが、文章の終わりや流れを明確にしたいなど必要な場合は個別で判断してください。

8. 使用用語指定

以下の書籍を参考資料として使用することを推奨します。

- ① 「共同通信社 記者ハンドブック」を基本に② 「NHK 新用字用語辞典」をサブテキストに使用する。辞書には特定の用語についてはひらがな表示を指定しています。表現内容との検討が必要です。また人名、固有名詞や歌詞等の著作物などは辞書に合わせずに、そのまま表記し必要に応じてルビを振ることで対応しています。


9. カッコの使い分け

現状の慣例に従って、カッコの使い分けは下記のような使い分けを行います。しかしカッコが表現を阻害しないように、できるだけ省略していく傾向にあります。

- ① < > ナレーションを表記する時に使用します。必要に応じて話者表記もします。
なお、セリフについてはカッコを用いずに表示します。
- ② 「 」 引用部分や、強調箇所、例えば商品名等に使用します。
- ③ () 話者の名前表記をする際や、ト書きに使用しています。例：(佐藤)、(拍手)
- ④ 『 』 「 」 の中にさらに重ねて②の要素を入れる際に使用します。
- ⑤ 《 》 モノローグの表記に使用することがあります。

10. 記号の使用


記号は字幕放送入力ソフトにある下記の記号を使用しています。

- ①  文章が次の字幕に続く場合に末尾に使用します。


例 明日の天気はどうやら  二枚目：晴れらしいね

- ②  音楽が流れている箇所や、歌詞の前に使用します。

例  ララララン

- ③  画面外から呼び掛けをするときなどに使用します。

例  おーい！

- ④  電話の受話器から聞こえる声を表記する際に使用します。電話のカタチがすぐわかない、携帯電話であるなどの場合は⑤の外字作成で対応します。

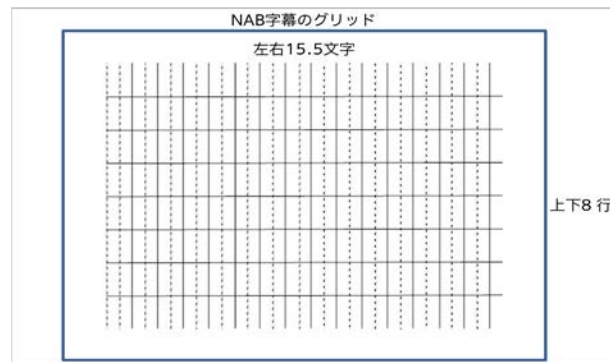
- ⑤ 外字 上記以外、音を発するものに対して、外字を作成して使用します。

例／テレビの音声を表すマーク、スピーカーから出る音に対するスピーカーのマーク、動物の声に対応するアイコン・犬猫など。

★④の電話のようにマークがそぐわない場合は、個別の判断によって外字を作成して使用します。

★同一字幕において外字は最大 5 種類まで使用できます。

11.動作位置指定



NAB 字幕では上図にあるグリッドによる文字・行単位で位置指定します。単位は 0.5 文字・0.5 行です。

12.配置の禁則

一枚の字幕に左頭揃え文と右末尾揃え文を混在させると、携帯字幕変換時に意図しない表示を起す可能性がありますので、左右に振り分けずに配置してください。

13.字幕のフラッシング(点滅)

一枚の字幕ごとに規定の間隔で点滅させることができます。

14.アンダーライン、ケイ囲み

希望の位置に使用できますが、9.カッコの使い分けにあるカッコを主に使用しており、ほとんど使用されていません。

注意：携帯字幕では強制的に外されます。

◎字幕化する音情報の考え方◎

TVCM における C C 字幕は、放送法 4 条で「音声その他の音響を聴覚障害者に対して説明するための文字または図形」と定義されており、T V C M における音情報の補償を目的とするものです。また字幕表現が、放送基準 99 条 ※参照 に抵触しないように考慮し、以下の考え方を参考にして進めてください。

参照資料 ※ (99) **契約以外の広告主の広告は取り扱わない。** 契約広告主以外の者の商品・サービスの広告となるコマーシャルは取り扱わない。たとえ、契約広告主の広告情報として必要不可欠な範囲で、契約外企業の商品・サービスに触れる場合でも、その契約外企業の広告効果を生ぜしめないよう十分、配慮する。広告主が小売りまたは卸業者等、自社製品を持たない業種である場合も、その特性を考慮するが、基本的には上に準じて取り扱う。

1. 伝えるべき音情報が複数存在する場合の対応

セリフの後ろに意味のある音楽、効果音が流れている場合には、曲のタイトル、効果音のイメージなどの端的な情報をセリフに併せて入れるか、セリフとセリフの空いているところに入れて、セリフをメインに表示させることが一般的です。情報をどの程度入れるかは、個別に検討してください。

2. 音がない場合に推奨する対応

セリフがなく、BGMのみが流れている場面においては、音符マークや音楽情報を表記して音楽のみが流れている場面だということを知らせることがあります。もし無音の場合も音がないことが情報です。(無音)または(静寂)と入れることをおすすめします。

3. 使用楽曲の歌詞を表示する場合の対応

歌詞を表示することがCM表現上、必要と判断した場合は著作物ですので、8.の辞書に合わせずに原典に忠実に表記します。歌詞中に上記の辞書においてひらがな指定されている文字が出てきた場合でもひらがなにはせず、ルビを振る等で対応します。

補足：対応言語について

日本語字幕のみであり、第二言語対応は行いません。

参考：A R I B字幕で可能になる機能と注意点

現在N A B字幕の制作要領で運用していますが、今後のトライアルとしてA R I Bならではの機能の使用も試行していく予定です。ただし携帯字幕では反映されない機能も多いので、下記★説明および巻末の機能整理参考資料を参照ください。

1. フォントサイズが5段階に

N A B字幕ではサイズ36のみでしたが、この36をデフォルトに30、24、20、16の5段階サイズが使用できます。

★携帯字幕では個々の受信機での固定フォントサイズに変換されます。

2. 文字数・行数の変化

サイズ36表示で左右21文字×8行、30表示で28文字×15行です。

★携帯字幕では16文字・3行または12文字・4行に自動変換され、字数制限を超えた文字は削除されます。

3. 字間、行間指定可能

デフォルトは字間4、行間24です。2.との連動もありますのでT R -B14規定を参照してください。

★携帯字幕では個々の受信機での固定の字間、行間へ変換されます。

4. 動作位置指定

N A B字幕で使用しているグリッドによる文字・行単位で位置指定するA P Sと画素単位で指定するA C P Sがあります。

注意：この二つの指定が同一の字幕に混在してはいけません。

★APS、ACPS は携帯字幕では強制的にスペースまたは改行に置換されます。

5. 文字および文字縁取りの表示色

規定色が 128 色選択できます。N A B にはなかった縁取りが出来るようになります。

★携帯字幕へはワンセグ規定の 8 色に自動変換されます。縁取りは付きません。

6. 横スクロール

1 行、文字方向スクロール。機能を搭載していない字幕制作システム機種もあります。

★携帯字幕においては固定表示に強制変換されます。

補足：禁則処理機能

入力システムに搭載されている機能ですが、使用できません。

①ロールアップ(せり上がり)

当面は使用しません。受像機に機能搭載されていないものがあるためです。

②縦書き

HD 字幕から携帯字幕への変換に対応できないためです。

③文字背景色

当面は現行どおり半透明グレー・黒・透明です。カラー帯は使用できません。

オンエア素材入稿フロー進行要領

放送局ごとに素材搬入前に「字幕チェック」を受けます。目的は①字幕が音情報の補償を果たしているか、逆に逸脱していないか ②字幕が薬事コーション等を隠していないか ③データ上のミスはないか などの確認です。

必要な素材は、1.音声構成と字幕構成を示す字幕構成確認シート 2.映像データ(オープンテロップ化したWMV等)または絵コンテです。チェック後、重畳作業した原版からオンエアプリント作業を行い、納品。プリントごとの字幕データの目視確認を推奨します。トライアルの精度が上がれば、このチェック段階方法も見直しを検討します。

注意！ 字幕付TVCMと字幕なしTVCMを混在してオンエアする場合は、放送局と当該素材を入念に連携してください。字幕付素材を誤って、字幕なしのオンエア枠に入稿すると大きなトラブルとなる恐れがあります。

(Index) 番号	InTime	OutTime	Duration	字幕	コメント
10				C-M	片ー
10	01:02:01:00	----	00:02:00		
11				C-M	片ー
20	01:02:03:00	----	00:03:00		
12					
30	01:02:06:00	----	00:03:00		
13					
40	01:02:09:00	01:02:12:00	00:03:00		
14					
50	01:02:14:00	----	00:02:00		
15					
60	01:02:16:00	----	00:04:00		
16					
70	01:02:20:00	----	00:05:00		
17					
80	01:02:25:00	01:02:27:10	00:02:10		

字幕構成確認シート見本

※参考資料として、日本民間放送連盟ホームページ掲載の下記資料をご覧ください。

「トライアルにおける字幕付きCM素材搬入ガイドライン 平成25年4月1日 日本民間放送連盟・営業委員会」

一般社団法人 日本広告業協会

JAAA
Japan Advertising Agencies Association

住所；〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル8階

電話；03-5568-0876 FAX；03-5568-0889 www.jaaa.ne.jp